

No 333 BASTOS, 26 de AGOSTO de 1956. O PROGRESSISTA REG No 4576 S. PAULO A.P.

第三百三十三号  
昭和卅一年  
八月十五日  
発行

DIRETOR  
KOITI MORI

REDATOR  
SHION ODA

RUA PRES.  
VARGAS 188  
C. P 112

BASTOS  
C. P

1 ano  
DE 1957

80¢-

バストス週報

八月十五日の想出

〔青年の方たちへ〕

今のバストスの若い方たち（よくいえばコロニアの男女青年のことですが）は八月十五日という言葉のものが意味もそれほどの痛切に心をうつるものではないでしょうか。吾々おとなにとつては敗戦の烙印を押しつけられた日として、ギラギラと油汗の流れるいやな想出の日であります。

今日では此の日を平和記念日と言っている相ですがフラジルでは聖母昇天祭としてカトリック教的に大功にしているのが大変心が休まらずに八月十五日はホリニアに赤字で印刷してあるのを手にしては、何かの休むとどうしようと、はアッソンソンだよ、イクルージャでミサがあるよとさささと出かけました。

私は八月十五日の回想にふけるためこの日は静かに読書することにしています。三度目の八月十五日菊を植うといふ句があります。之れはフロミンソン市の奥崎黎女史の作で終戦三年目の思ひ出であらうでしょう。フラジルでは菊苗を植える時、候でもあり、菊を通じて遙か日本の再建にいそむる心を画いたものと解して、しみじみとした味があります。

もし終戦の頃吾々が祖國に居たとしたら、都鄙何れに住まおうとも、さげがたに悲憤のドソ底にあえぎ、さまよい歩いたことでありました。

フラジルの移住していたおほかたで、身共に辛い目にも會わな、生命財産を全うし得たことは、ひとえにフラジル政府当局の理解ある措置によるものと、今尚感

戦時中下獄したり、監禁されたり、不律な待遇を受けたりした人は一部になかったわけではありませんが、田舎で静かに農業に従事していた者は存外の人なきな目を送ったものでした。そのことが終戦の真相を知りそなうた原因の一つになつてゐるのです。

一九四五八月十五日。それは常に戦況を案じてラジオをきいていたものにとつても、実に青天の霹靂といふべき思いがけない悲報に接した日でした。八月に



アタタの美容を保証し  
アタタの健康を保証し  
アタタの長寿を保証する

日本のわかもと  
胃腸が弱くては美容も  
健康も長寿も台無しです  
わかもとを常用して  
楽しく暮らしましょう

東京わかもと製薬株式會社謹製  
伯國總代理店 聖市パリス製薬會社  
社中又保券本部  
C.P 三六六六



ALFAMATARIA IMPERIAL

アカヌケにしたお洋服は マルヤマで

キゴコケのよいか洋服は マルヤマで

入ったから日本のラジオ戦況ニュースは何となく活気がなくなり、今にして思えば敗色濃き報導だったのです。誰か邦人として日本の勝利を信じなかつたものがあつたのでしょうか。敵機何百羽都上空を通過せりとか、敵の艦砲射撃を蒙りたりとか、廣島に新型爆弾落下せりとか面白くない報導の裏を流み破る力は吾々にはなかつたのでした。本土上陸決戦迫るの報をきいた時は緊迫感といいますが、武者振りつきの似た感じ、背すじをさつと冷たいものが走るような感じがしました。そういふ時、思いは遠く元寇の昔にはしり

肉弾相搏つ、凄愴な地極給を頭に画いたり  
 沖波最後の様相なども想像されて、毎日  
 仕事も手につかぬ日がつづきました。本  
 土上陸戦士前にしてコロリとホツテム宜  
 言と受諾することになるなどは左伯邦  
 人の詭も夢想だにしなかつたことであ  
 ります。浮島の如き沖波とはちがつて島  
 嶼といえども日本本土が、そうやすやすと  
 敵軍の上陸をゆるすものか、今こそそ  
 れが戦術の愚を逞いですが、気が引き締  
 っている頃です。敵軍を波打際に引  
 つけて一挙に勝敗を決し不敗日本の偉力  
 を示すものと考えていたわけでした。之  
 れは日本人としての笑は、笑え、戦争に  
 対する常識であつたのです。それから先  
 きの事は全然念頭に湧かず、上陸軍との  
 大殲滅戦を以て大戦は一応終るものと希  
 望に似た、ちかれば、な考しありません  
 でした。

今日となつて見るとそれらの考えがい  
 かに幼稚なものであつたか、判るのさ  
 が、何分外国に居る吾々は戦争経過がよ  
 く判るす一方的に傾いていたこと、日本  
 の国力に対する常識が偏重、且つ盲信的で  
 あつたこと、正確な判断を下しがたい環  
 境におかれ、正しく、邦字新聞発行が  
 禁じられた餘憤が伯字紙の正確な報導を  
 す、すなわち受け入れにくい心境を作つ  
 たことなど色々なことが禍いして、遂に  
 最後のドタン場迄来て、何かなにやら、わ  
 がわからず、終戦の御詔勅を聞いても、  
 人な馬鹿な、と耳をふさいで、聞くとい  
 さざよしとしない有様でした。  
 文章のよく解らない人達の中には日本  
 が英米支露の四國に命じて戦争を中止せ  
 しめたり、だから日本の勝利だ、という解釈  
 を下して、ここにコロニアを二分する勝  
 ち組負け組の邦人対立が出現し、十年を  
 経たず、今日猶その溝が完全にうめられ  
 振る移任史に特筆される不幸な、蟠りを  
 作つてしまいました。  
 今年の八月十五日は四六年から教えて  
 十二年目、満十一年年です、ようやくこ  
 ういふ批判的なことを書いても、お互い顔  
 を合せてホロにがい思ひをする程度とな  
 りました。が、ついで五年前迄は、ううか  
 りにうした問題に触れると、うるさかつた  
 ものがあります。  
 コロニアの大きき事も年と共に少しが、  
 癒えていくことはいふれしいことにちがひ  
 ありません。(余音)

若草  
 念腹  
 家鴨の子若草を踏む靴に散る  
 若草に露ころふ馬をいぶかしむ

Sapataria Hayakawa



早川靴店

少年野球の監督として

私はこんなことを考へる

七月廿四日早朝十四名のバスターズ軍の  
 豆選手と十三人の應援兼耐漆人は勇まし  
 く全伯少年野球大会遠征の途についた。  
 大会の遠征は皆さん既に御承知の通り、全  
 力をあけて戦つたが球神の恵みにあづか  
 ることができず第四位となつてしまつた。  
 敗軍の將兵と語らずとさいて引込ん  
 いると週報社の織田さんが何か感想があ  
 るだろうといわられるので筆不精の私が  
 遠征記の一部で気のついた事を書くこと  
 になつてしまつた。

出発の際に選手の家族、野球関係の皆  
 さんに見送られて選手たちははしゃぎまわ  
 る程元氣であつたがバウラーの發車後車が  
 みどく、こみ合ひスララベスの応援団六十  
 名と乗り合せ、又学校帰りの人々が多かつ  
 た為の空席がなく、とうとう立ち上つた、  
 の難儀な旅行となり、三人程汽車酔いを  
 起してしまつた。汽車中二食のベントウ  
 を用意して行つたがジュジャイに着いた頃  
 夜食の時間が大部分の少年は合へる元  
 氣がなく、そのまゝサンパウロに着いた。  
 このことは翌日のバスターズ車酔いと起す  
 原因にも関係し練習の不調にも累を及ぼ  
 す結果となつていさうに思われ、今後  
 ぐぐぐその時感だたことであるが、今後  
 は少々の負担を覚悟して選手の膝に無理  
 をしないように旅行させてやり度、数  
 日前から又メラードを予に入れ席につか  
 せて休息させねばと思つた。  
 又この汽車は時間同の都合で聖市着が  
 くれ、在聖バスターズ人の折角の歓迎出む  
 かえり皆帰つてしまふ淋しかつた。着聖  
 の際は京野四郎氏が前以てオニクスを用  
 意され、宿舎もバカエンズ競技場と決り  
 まつた。宿舎も案内して下さつたので、  
 一行大いに感激した。文中失礼ではある  
 がありがたく御礼申上る。

少年野球のつぎ

廿五日及廿六日はモツカ運動場に於て練習をしたが、前日の汽車の酔がまだ幾分のこつていて充分練習するわけにいかず、宿舎よりの往復もオニスを使用するの費用は軽減されるが時間的にはムカが多かつた。練習日数の不足というよりは試合に備へる力のチームなら問題を練習不足の方が敗れる。初日の組合せが拙哉で昨年度の優勝チームと決つた時は豆選手たちワ〜と此の声を挙げて武者振るゝをしました。此のスコアは全力を傾注したが、幸い回二のスコアでスワララバスを破ることのできたが、此の試合は応援勝ちと言いたい。位バスター軍への応援が終始吾々をほほまじ、存聖バスターの声を援は物すこいばかりであつた。選手たちも何くそと奮起する意気と両々相まつて有利な試合のこたは善はレかつた。応援の中には南銀の山根さん、ドットル農田、ドットル京野、吹本さん、渡部さんなどの大物から学生諸君に到る迄熱狂の声援であつた。初日に全力を出し切つて二日目にはアサイにさんさんやられてしまつた。セロ敗は実に残念で後援者の皆様に對しては誠に申わけないと思つてゐる。此の敗因も充分に調べて将来への教訓としたい。三日目の第三位決定戦では、最終回まで一ポイントで押し切るかと思つたが最後の打で満塁二死の時右翼手二壘打を放たれ、涙を流して敗退の余儀無きといふたつた。守備が浅すぎたとの評もあるがすべては結果論で、球運がなかつたところからめるより外はない。バスターチームの後援者並るん各位の御期待を裏切つた点ではまことに胸の痛む思ひである。かくてバスター軍は第四位となつたが少数の選手によつてよく終始全試合に敢闘した点は応援の方を觀望者も、その事実を認めて下さると思つて慰められる。

自轉車 格安にゆづる

マルカ フリップス 自動電燈付

新品同様であります

ウニオンⅡ入口

溝越平八郎

26-8-56

各チームの選手数を一べつすると一番少いチームが二十三名、多いのは三十名以上を擁し、コンテーションのよい選手をその日の試合に立たせてゐる。バスター軍は僅かに十四名、一人故障を起したら取替へのない陣容である。これは勿論經費に關係するが、聞くところによると最低六十五コンテ程度、多いチームでは九〇コンテ以上百二十コンテも予算をとつてゐるといふことである。従つて練習の上でも二週同以上を費し、実地の環境になじませているなか中々ありがたい布石を打つて居るのである。バスター軍はかかる布陣の前に選手の数も少く費用の点でも非常に切り詰めて充分なことが出来て居ないことを、即ち陣容の裏面でのチームに遠く及んでいないことを知つていたのだき度い。此の点池内さんが経済面にもいふ苦労をして居られるので感謝の念を述べ、決して文句を云つてゐるのではなく、少年野球の現在の在り方が、この状態であること、一々触れた道である。今回の大会に於てバスターチームの捕手浅田君が最優秀捕手として受賞したのと及び、バスターチームのマネージャー池内さんがパワリースタ新聞社十周年記念少年野球の功労者として栄ある表彰を受け、た事は、我々少年野球軍の限りなく喜びである。池内さんが腹食を忘れて今日追少年野球の育成に盡力された功は実に絶大なもので、優勝こそ遠く居るが常に全伯戦に出陣できる道に結実させた苦労を思うと頭がさがる。今後とも此の道に盡力されんことを願つて止まない。尚蛇足ではあるが監督としての所感としてつけ加えたいことは、敗因の一つに選手の個性を生かし、一軍を統一する術を欠いた事を率直に挙べるべきである。これは合宿練習期間の不足に起因する小選手の精神的統一こそは必要以上の必

棉作歩合者

今年は棉作のあたり年 必ずもうかる

好條件で御世話いたします

御希望のお方は左記へ

板垣泰熊

Y. Tagaki

要事であつて少くとも合宿練習期間に各選手の特徴を把握して巧みに之を要所要点にはめ込むことが緊要である。しかしこれは三日や四日の短日時にはよくなし得る仕事ではないと思ふ。

それからもう一つ、少年野球が衰へて仲むて来た以上、少年野球が一部の人の手で勝手に賭う可きものでなく後援者といつても経済的にもつと云いつながらりをもちバストスの名に於て今少しく熱意を示して頂きたいと思ふことである。

(筆者は 小野 等氏)

### 感謝とおしらせ

去る八月三日「ターハン」上映の節は多大の御援助を賜わり、ありがたく御礼申上ります。

聖母婦人会 並ニ  
バストス家政女学校

バストス産業組合  
連日会長 谷口 章  
スラ栢製糸 早川 様  
並ニ 各位

尚 来る八月二十八日 八時(夜)より

「大奇蹟の聖母マリア」を

上映いたします。どうぞ御来場下さい  
会場 シネ バン テイ ラン テス

### 春 雑 念 腹

春の宵なれど公園 淋しかり  
苺や 鯉生 捕れる 黄衣の娘  
草餅や 手造りの 椅子 廻ります

### アストルガス惨劇の犯人 捕えて見れば日本人?

北バアストルガで山口バカールの家族キヨ子(21)ヌケ子(29)及末子(1)さんの三人が主人のソノマ見物中強盗の爲め惨殺された事件は早くも各紙の三面記事として大々的に報せられ人々の心胆を寒からしめたが、さく処によると八月三日同地でシネマ巡業中の日本人が怪しいと睨まれ逮捕された由、その日本人が何とかがアストルガス、ブルワラ区に居住したところのある高原某兄弟と云うので知人らは肝をつぶしているという。真疑の程はいつか判明することと思はれるが、とんでもない事件を引起したものである。誤報を幸

### 将棋倶楽部 閉鎖

ドギエカシアス街村上氏の一室ではかねて将棋好きの倶楽部として賑つて居たが八月十七日(金)突然当局から閉鎖を命ぜられた。正式に倶楽部として認可を受けよとの事で目下手続中とか。何でもピンポン倶楽部が閉鎖されたので、そのウツフツからアストルガスにされた為めである。と噂されてはいるが、ピンポンや圍碁将棋が悪いから閉鎖されたというのであろう。さうもねはいけんというのであろう。さうも。

### 北巴霜害 目もあてられず

坂東商店主の談

バストスシャツ会社の賣上人としてマコリが方面を約二週間に亘つて旅行した坂東人の話によるとオウリンニヨスから口ンドリーナ込込は霜害がなく、や好況が、奥に行くに従い全く目もあてられな程不況であるという。見渡す限り白々としたカネ、サールで、アルトパラナ、パラナバイ地方は最もひどく二米以上のコヒヒ樹は根こそぎ枯死して、葉ぶく様子もなく、新規にやりなほさねばならぬ程である。マシメントは左イジャン以外に不作であり、ミリヨも百針前後では採集が出来ず、コロノにも支払が出来ず、さくをく聖市郊外方面へのムカンサがつが、大不況の標相を呈しているとの事である。尚、咖啡地帯とて信頼されるのはロンドリーナ附近道で奥へ行く程霜の危険が多く、余程考えてやうぬと失敗をくりかえすであらうといわれている。

7-8-22





"Não querendo apurrar o desespero do policia, chamei "Joli-Coeur", mas este não estava disposto a obdecer, aquela brincadeira divertiu-o e recusou fazê-lo, continuando o se passeio, correndo e fugindo quando eu o queria agarrar. Não sei como isso foi, mas o policia; obsecado decerto pela zanga, imaginou que eu estava gritando o rescoço e, muito depressa, saltou por cima da corda. Em dois saltos achou-se ao pé de mim e senti-me meio derrubado por uma bofetada. Quando tornei a levantar-me e a abrir os olhos, Vitalis que apparecera não sei como, estava collocado entre mim e o policia que ele segurava pelo pulso.

- Proibido, sige-me ao posto.  
- Porque razão bateu nesta criança?  
- Nada de palavras sige-me Vitalis não respondeu, mas voltando-se para mim:  
- Volta para a estalagem, disse-me ele, deixa-te estar lá com os cães, far-te-ei chegar noticias minhas.

Não pude dizer mais, o policia levou-o.  
O meu mestre costumava trazer a sua fortuna consigo, e antes de se deixar levar pelo policia, não tivera o bastante para nos sustentar todos, eu, os cães e "Joli-Coeur".

Bassei assim dois dias em afflicção, não me atrevendo a sair com os cães, que todos eles se mostravam inquietos e desgostosos.

Felizmente no terceiro dia, um homem trouxe-me uma carta de Vitalis. "Deixando-me arrebatar pela colera, dizia elle, fiz um grande erro e e poderá custar-me caro. Mas agora é tarde de mais para o reconhecer. Vem á audiência; será uma lição para ti.

Eu não sabia o que eram os tribunais, a justiça, mas por instincto tinha um medo horrivel disso: parecia-me que, apesar de se tratar do meu mestre e não de mim, que eu estava em perigo; fui meter-me entre dum grande fogão, e encostando-me á parede, fiz-me o mais pequenino possivel. Por fim Vitalis veio sentar-se entre dois gendarmes no banco onde toda a gente o havia precedido. O que se disse logo ao principio, o que lhe perguntaram, o que elle respondeu, não se absolutamente nada; estava extremamente comovido para poder ouvir, ou pelo menos comprehender. Além de que, não pensava em escutar, olhava.

- Essa criança não é sua?  
- Não senhor presidente, mas gosto dela como se fosse meu filho. Quando vi bater-lhe perdi a cabeça, agarrei com força a mão do policia e impedi-o de bater outra vez.

- Bateu por sua vez tambem no policia?  
- Quero dizer, quando elle me pôs a mão na gola, esqueci-me quem luctar de ver um policial, e cedi a um movimento instinctivo, involuntario. - Na sua idade não se cede a movimentos instinctivos.

- Não se devia ceder; infelizmente não se faz sempre o que se deve; sinto-o bem hoje.

Eu julgava que iam pôr o meu mestre em liberdade. Mas nada disso. Em outro magistrado falou durante alguns minutos, em seguida, o presidente, com voz grave, disse que o chamado Vitalis, culpado de injurias e vias de facto a um agente da força publica, era condemnado a dois meses de prisão e cem francos de multa. Dois meses de prisão! Atraves das lagrimas vi abrir-se a porta por onde Vitalis entrara; este saiu atras dum gendarme, e a porta tornou-se a fechar. Dois meses de separação. Para onde ir?

Quando voltei para a estalagem, com o coração oprimido e os olhos vermelhos, encontrei a porta do pateo o estalajadeiro, que olhou de-moradamente para mim. Já passar para ir ter com os cães, quando elle

me fez pagar,

- É então? disse-me elle, o teu amo?

- Foi condemnado.

- E quanto?

- E o que queras tu fazer durante esses dois meses?

- A dois meses de prisão

- Não sei, senhor.

- Ah! não sabes. Tens dinheiro para viver e para sustentar, os bichos, creto?

- Não senhor.

- Pois bem! meu rapaz, continuou o estalajadeiro, o teu amo deve-me já muito dinheiro, não te posso sustentar a credito durante dois meses sem saber se no fim me pagarão; é preciso irres-te embora daqui. - Irte embora! mas para onde quer que eu vá, senhor?

Continua.-

全伯陸上競技大會出場會計報告

dia 21, 22 - jul - 1956

摘要	収入	支出
入植祭売店収入(野球部持参)	7,690.00	
寄附金	4,200.00	
滞在費		1,725.00
パーセ(ヌメラード共)		5,053.00
交通費(自動車代)		700.00
選手サービス		1,170.00
選手マーク代		100.00
電話料(サンパウロ及州内)		450.00
パウリスト割当費用		987.00
選手送り(ホッホシ、メルツラ)		340.00
選手食事		75.00
合計	21,890.00	20,300.00

全伯大會遠征費  
寄附者芳名

- フランチック製糸会社  
バンテランテ産業組合  
橋本製糸各種工場  
バティスト婦人会  
バティスト婦人会  
小我田呉服店  
ハストス産業組合  
畑中常仙次郎孝  
南伯中央産業組合  
太郎田商店  
南米銀行  
水馬商店  
梶野商店  
三野商店  
西道商店  
早川商店  
山根商店  
三立商店  
三木商店  
佐次商店  
古田製菓商店  
藤原孝商店  
吹本商店  
坂口商店  
池内商店  
水口商店  
宇守商店  
池越商店

BOM NEGOCIO EM BASTOS  
 Vende-se Padaria Internacional o motivo sera explicado ao interessado, pessoalmente.  
 Atende-se qualquer hora.  
 PIGINI  
 盛業中のパン店  
 都合によりゆづります  
 充分利益のある  
 商賈です  
 くわしいことは面談  
 いつでもよろしい  
 左記へお訪ね  
 ホン店の主人  
 ビジソニ道

春 雑 念 願 選 (-)  
 雨焼けといふも悲しや花マンガ  
 馬と牛春草食むに争ひぬ  
 春の宵柳手葉にかりみ月のほろ  
 同化とは牛飼ふ事かイペの花  
 道草に子等急き居る春の雲  
 北泉 鋸郎 稻花 北泉 和枝

- 白一 二  
 自動車代 000000  
 以上  
 柳高田奥杉西  
 浦田田田商  
 バ時地商 徴  
 ル店会耕店  
 様様様様様

差引残金 CR. # 1,590.00  
 1956年8月8日  
 以上の通り御報告いたします  
 全伯大会出場に際し御協力を戴きました  
 皆様には厚く御礼申し上げます  
 陸上部  
 上 西 泰 一 治  
 前 山 義 雄  
 三 野 善 一

8  
 26-8-1



歸化御挨拶

杉山 泰吉

私こと、昨来本市師範学校を卒業致しました処、幼時両親に随伴して渡伯いたしましたので、職責上当国に帰化する必要を生じました。依つて去る三月二日書類を提出致しました処、早くも六月十九日には連邦政府官報紙上に帰化許可の發表があり、次いでツパン裁判所より八月十四日附を以て認可の正式書類一切を下附されました。本手続は在聖市Dr京野四郎氏の御盡力によるもので、全く感謝の外ありません。前記の様に此後は伯国市民として及ぼす作ら教育界に盡瘁する決意でございます。故何卒此後とも宜敷しく御指導あらんことを御願ひする次第でございます。

取敢えず石御挨拶まで。

敬具

一九五六年八月二十日

各位

ALBATROZ

Lava

Melhor



サホンハ  
アルバトロズ

おきめ下さい

使へば使ふ程  
すきになる

それは?

形がつかれず

手があれば

よごれがよく落ち

おまけに  
安いからです

各商店にあります

少年青年の勉学の助けとなる  
「オス・ジョーベンス」月刊  
ごらん下さい  
日語と葡語の四冊指導シンスン

申込所 連青 西 徹

Casa Taroda

ホゴン  
ライジオ  
フリッ  
ツプス

アラマル  
バロス街

太郎田商店

御用意なさいませ  
作物により、それそれ性質がちがいますから、棉用とシブ菜用とが御指定下さい。  
アラマル付工場より直送いたします

ベンゼネックス

フランター時期がまいました  
殺虫剤と肥料は  
有名な

月賦でとじあはる優良品



シンガー  
ミニシン

Nossa Relojoaria  
AV. TAMOIOS 785  
Tupã



ツパン一の大時計店

最も信用ある大時計店

時計、メカネ

貴金属を

おための節は

是非おたちより下さい

ノッサ  
時計店

鉢植の松苗がリッパにできました  
柿しぶ(高血圧の人)にすすむ  
一回一さじ一日二回つづけると、忽ち  
効果があります

アルト 西 種 苗 園

見本週報社にあり

旅たのし、徳久先生講演は次回迄(今週休)

# HOTARU NO HIKARI



## 螢

ほたる

の

## 光

ひかり

絢爛 眼をみはるばかりの  
 総天然色映画

純愛と友情の大メロドラマ

管原 謙二  
 若尾 文子  
 船越 英二  
 八潮 悠子

演技まじく光るオールキャスト

いよいよ来る

九月七日 午後二時 八時 二回  
 九月八日 午後二時 八時 二回

めったに見られぬ美しい映画 皆様御そろいで御でかけ下さい

### シネパティエント

迷い手紙

受取人

差出人

佐藤喜人(ハスト)様  
 矢島金吾様  
 河島作藏様  
 渡辺 登様  
 松井 Y様  
 森中兵吾様  
 小出 崇子様  
 竹下 Y様  
 伊東友治様  
 田中庄太郎様  
 三三サン様  
 平木 宏美様  
 西森重喜様  
 三井木 様  
 内馬場七郎様  
 田中庄太郎様  
 山本ナツキ様  
 小沢将男団長  
 大倉信子(小倉)様  
 スナタニセイコ様  
 大矢セイ子様  
 永野みどり様  
 森 重 清(心)様  
 平井しゆ子様  
 坂東英泉様  
 高橋節子(女史)様

伊予小松町子安講本部  
 高崎市 榎ナヲ  
 徳島県 下田 中  
 熊本県 山口 峯花  
 京都市 高橋 定栄  
 広島市 坂本 三十  
 神戸 清美 アイケ 崇  
 熊本県 叶 令子  
 岩手県 佐藤 栄藏  
 尾道 富一郎 聖市  
 熊本県 小山 正  
 山尾久孝 聖市 新市  
 アビシヤ クレシセイロ ムラタ  
 森寺岡豊 サンゴビ  
 ジョウオオノラ 聖市  
 アサイ 浦みゆり  
 ハウロ黒木 ラッパ  
 寺岡チエ子 サンゴビ  
 リベロヒリス 田中 建作  
 リホホカカサ 砂原 ロリス  
 聖市 ヒニエロス 古田 シェル

御挨拶

パイたちがサンパウロへ店を出れましたので、池田ホテルは私たちが経営することになりました。  
 お泊り、お食事、ご宴会 など  
 勉強いたします。御利用下さい  
 池内ホテル  
 小野のぶ子  
 池田じゆん子

黒川三三男様  
 赤ラヤ 在太郎様  
 遠藤守太門様  
 佐藤みよお様  
 野島ヨシト様  
 浅田ヤスジ様  
 五十嵐新作様  
 宛名の読めないのは、あて字にしました。  
 知人友人となたてを心あたりの方は  
 とりにあいで下さい  
 西あかり所 週報社